青森県における縄文時代前期の土器埋設遺構

坂　本　真　弓

1　はじめに

縄文時代の遺構には地面を掘り込み、土器を埋設した遺構がある。住居跡内であれば「埋甕」、屋外であれば、「屋外埋甕」、「埋設土器」、「土器埋設遺構」など呼称されている。

青森県では1955年に蟹沢遺跡（八戸市）の発掘調査で前期の土器から幼児骨が出土した例がある(註1)。その後、類例の検出や研究に目立った動きがないままであった。この遺構は縄文時代中期以降の検出例が多数を占めていたが、近年、前期の検出例も増加している。このため、青森県における縄文時代前期の土器埋設遺構を集成し、検討を加えることとした。

2　土器埋設遺構の定義

屋外に埋設された土器の中から、胎児～幼児骨が検出される例が多数あることから、一般に土器埋設遺構は埋葬施設として捉えられている。ただし、屋内については「埋甕（縄文中期以降）」などの研究成果があり、一概には言えないのが現状である。縄文時代の埋葬事例を研究している山田康弘氏によれば、「住居跡内の土器棺葬（土器埋設遺構）はいまだ確実視される例は存在しない」(註2)とされているので、ここでは屋内の土器埋設遺構については除外し、屋外検出の土器埋設遺構＝埋葬施設のみを扱うこととした。

3　遺跡の分布（図１）

青森県内で縄文時代前期の土器埋設遺構は、15遺跡307例が発見されている。これらは円筒下

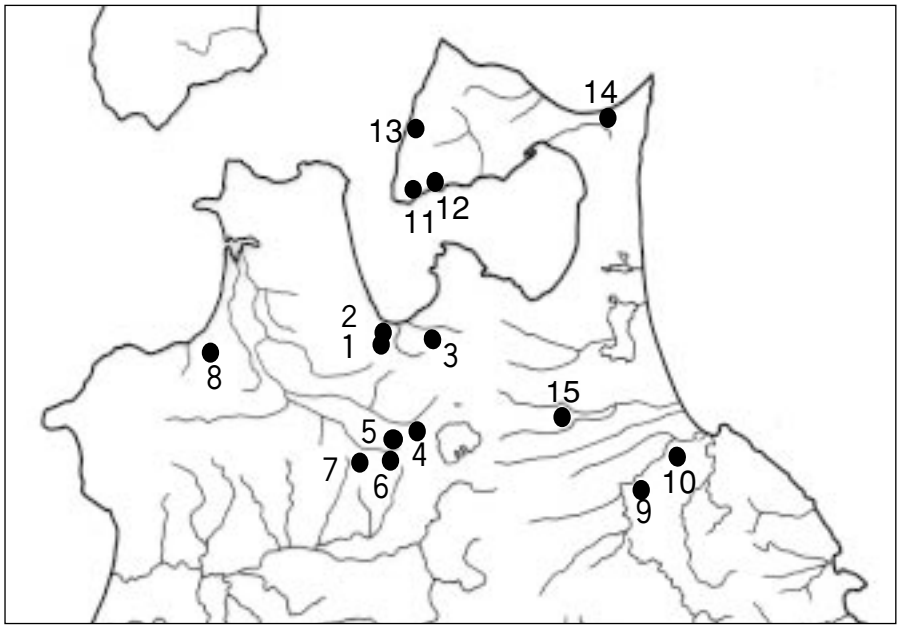


図１　遺跡位置

番号	遺跡名
1	岩渡小谷（4）
2	三内丸山
3	稲山
4	板留（2）
5	大平
6	大面
7	石川長者森
8	鳴沢
9	畑内
10	蟹沢
11	瀬野
12	稲平
13	八幡堂
14	石持納屋
15	中崎沢

層式（以下、単に下層式とする）土器とみられ、津軽地域に多く、次いで下北地域、三八・上北地域と続いている。本県隣接地域では、岩手県北部の大日向Ⅱ遺跡の41例、秋田県北部の池内遺跡の９例、北海道南部の新道２遺跡の８例など、大部分が下層式土器の埋設例である。この地域は円筒土器文化圏内にあるが、この文化圏外の岩手県南部の峠山牧場Ⅰ遺跡や秋田県南部の上ノ山Ⅱ遺跡などでは、該期の大木式土器が埋設された例がある。

本県から検出される土器埋設遺構の特徴は、１基で検出される例は少なく、住居跡や遺物捨て場などの集落に近接して立地する傾向がある。また、集中して構築される場合とまばらに構築される場合に二極化するのが特徴である。土器埋設遺構の集中する遺跡としては、陸奥湾沿岸の岩渡小谷（４）・三内丸山・稲山遺跡、岩手県に隣接する新井田川流域の畑内遺跡が挙げられる。この流域には前述した大日向Ⅱ遺跡も立地しており、土器埋設遺構が集中する地域としてこの二地域に大きく分かれている。

４　土器埋設遺構の分類（図２）

分類にあたって、以下のように報告書の記載内容を統一した[註３]。また、埋設部位については、図２－１に示したとおり、６つに分類した。１と２は胴部の残存部の違いで分け、４・５についても同様で、検出状況の断面図や写真、文章記載・実測図から判断している。実測図に関しては、個体復元できなかったものなどで掲載されていないものもあり、あくまでも検出状態を最優先にして分類した。複数個の土器が埋設されているものについては分けて記載している。

図２－２の埋設形態については、大きく「正立」・「倒立」・「入れ子」・「合口」に分けられる。正立・倒立形態のものが単独の埋設形態であるのに対し、入れ子・合口は複数個の土器を使用するのが特徴である。「入れ子」は、正立の土器と正立の土器を重ね合わせたもの、倒立の土器と倒立の土器を重ね合わせたものに二分され、便宜上、前者を「正正入れ子」、後者を「倒倒入れ子」と呼称する。「合口」は下部の土器が正立で、上部の土器が倒立して埋設された形態で、土器の口縁同士を組み合わせており、上部の土器の大きさで二つに分類した。下部の土器が上部の土器より小さいものを「合口１」、上部の土器が下部の土器より大きく、完全に覆い被さるものを「合口２」とした。

正立・倒立・入れ子・合口の埋設形態のなかで、地面に対し傾いて検出されたものをとくに「斜位」の埋設形態として分類した。報告書に記載されたもので、明らかに斜めに傾いているものは「斜位」としたが、これについては、遺構の立地、土砂の流入などによって変化した可能性もあり、あくまでも、「正立・倒立・入れ子・合口」とした分類の一要素として捉えることとする。

図２－３は土器埋設遺構以外に出土した遺物の出土状況を三つに分類したものである。土器埋設遺構の下部に設置されるもの（Ａ）、埋設した土器の上部に設置されるもの（Ｂ）、土器内から出土したもの（Ｃ）に分けられる。土器埋設遺構に付属する施設としての出土状況（Ａ・Ｂ）、土器内に副葬品として埋納されたと思われる出土状況（Ｃ）と想定される。

５　分類結果（図３～５）

縄文時代前期の傾向を図３－１～３の円グラフで示した。

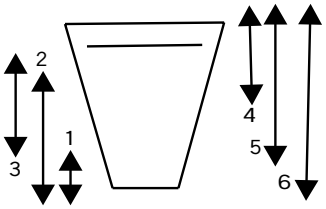


図 2 - 1　土器の埋設部位

番号	残　存　部　位
1	胴部下半～底部
2	胴部上半～底部
3	胴部のみ
4	口縁部～胴部上半
5	完形に近く、底部のないもの
6	埋設時、完形に近い形状のもの

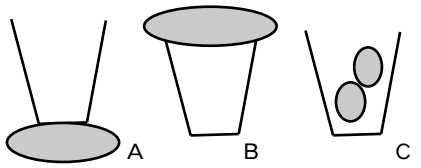
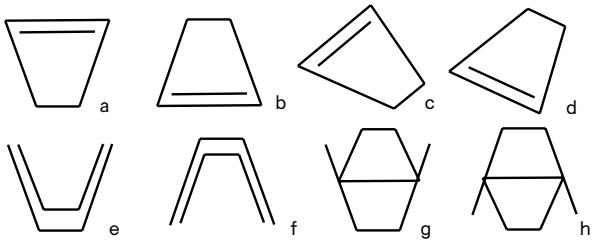


図 2 - 3　礫を用いた付属施設（A・B）と土器内出土遺物（C）の違い



	埋 設 形 態		埋 設 形 態
a	正立	e	正正入れ子
b	倒立	f	倒倒入れ子
c	正立斜位	g	合口 1
d	倒立斜位	h	合口 2

図 2 - 2　埋設形態の種類

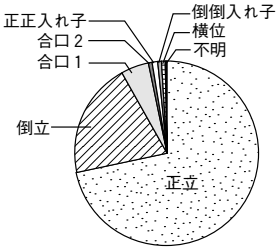


図 3 - 1　埋設形態の割合

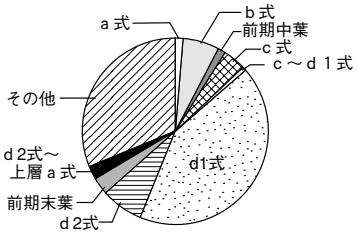


図 3 - 2　形式別割合

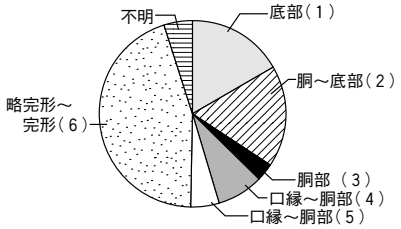


図 3 - 3　残存比率

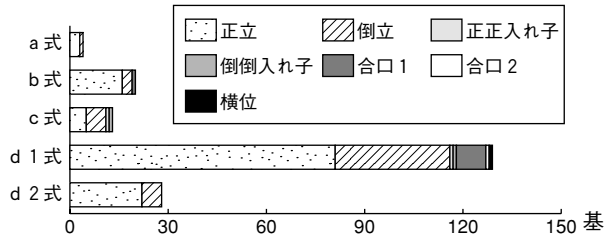
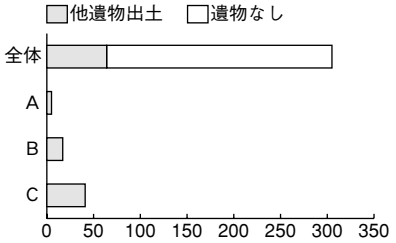


図 4　土器形式別個体数と埋設形態数



土器付属施設数

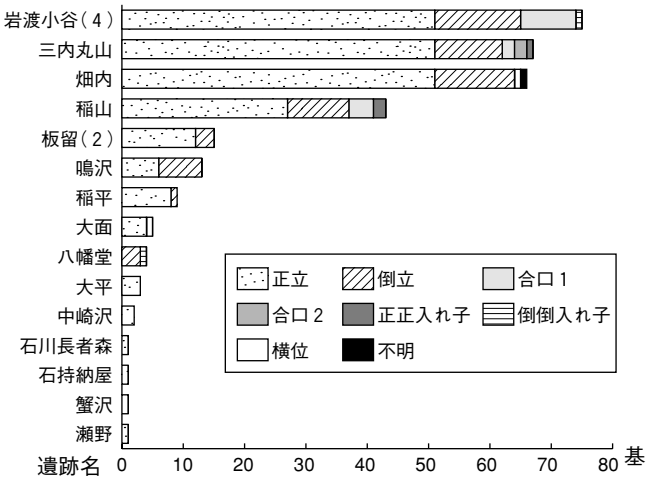
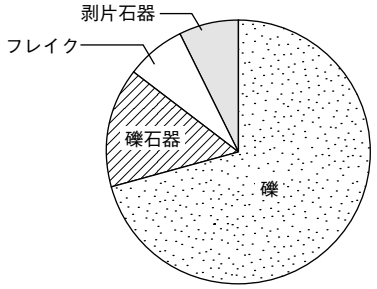


図 5　各遺跡の埋設形態数



土器内出土遺物（c）の内訳

埋設形態－307例中、正立は220例で、このうち斜位のものは20例で併せて71％を占め、埋設形態の主体となっている。倒立は62例で、このうち斜位のものは９例で併せて21％と１／５を占める。複数個体を組み合わせた入れ子５例と合口17例は全体の７％である。

土器型式別－307例中、土器型式の明らかなものは183例で、全体の約60％である。この中で最も多い型式は前期末葉の下層ｄ１式の124例で、全体の42％、ついで下層ｄ２式の24例、下層ｂ式の19例、下層ｃ式の12例、下層ａ式の４例がある。

埋設部位－324例中、埋設部位の明らかなものは304例で、最も多いのは口縁部～底部の完形土器（６）148例で全体の45％、次いで胴～底部（２）50例、底部（１）52例などで、底部を含む埋設部位が全体の36％を占め、底部を含まない胴部（３）６例、口縁～胴部（４）28例、口縁～胴部（５）20例などが全体で16％を占めている。

土器埋設遺構に伴って出土した遺物は305例中、69例で、全体の１／５に満たない。土器埋設遺構の下部に設置されるもの（Ａ）５例、埋設した土器の上部に設置されるもの（Ｂ）15例、土器内から出土したもの（Ｃ）58例である。土器下部には自然礫や台石・石皿を設置した例（108・112・117～119・157）が見られ、蓋石にも同様の礫を使用している。蓋石は土器上部をほぼ完全に覆うものもあり、Ｃの土器内出土遺物とは区別される。土器内の遺物には、角礫・剥片・小石など各種の石材が用いられている。石器は数が少ないものの、石鏃・石匙・シクレイパー・敲磨器・磨石などが出土している。

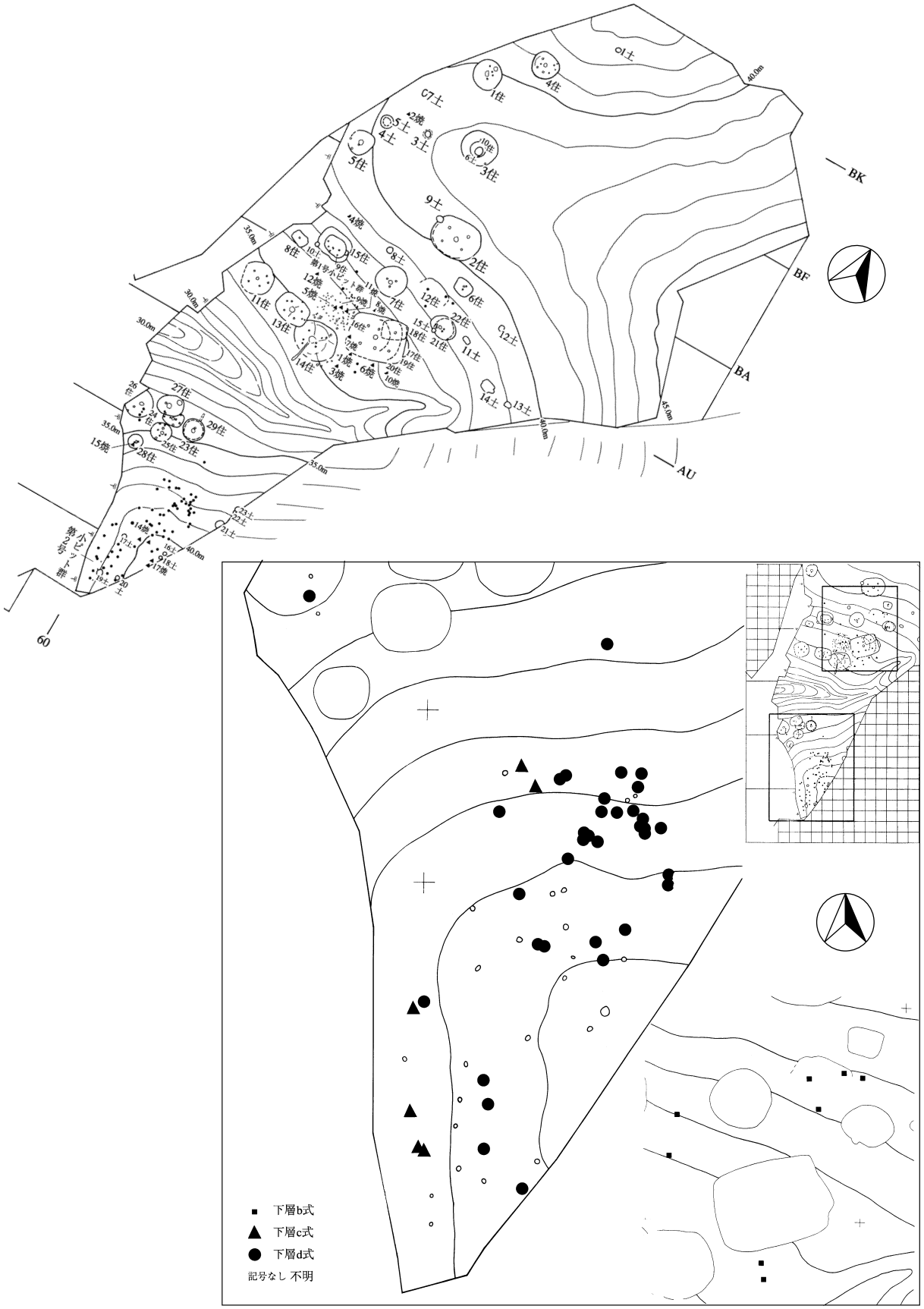
図４で示したグラフは土器型式別の個体数と埋設形態の内訳である。

土器型式別に見ると、前述のとおり下層ｄ１式期には急激に増加し、ｄ２式期も数量は少ないものの、ｄ式期以前に比べれば検出例が多い傾向にある。各型式を概観しても、正立土器の割合が高く、倒立土器がこれについでいる。ｃ式期はこの傾向とは異なり、正立・倒立の割合がわずかながら逆転している。複数土器を使用する入れ子・合口の埋設形態は、下層ｂ・ｃ式期に現れ、ｂ式期には三内丸山遺跡で合口２の形態が出現している。また、ｃ式期には稲山・八幡堂遺跡で正正入れ子・倒倒入れ子の形態が出現している。これらは入れ子・合口形態の初現と見られ、ｄ１式期に増加し、とくに合口１の形態が多く埋設されている。

図５のグラフには遺跡別の埋設形態の検出数を示した。全体の傾向と併せて見ると、正立の土器が多数を占め、これに倒立の土器が続き、その比率はおよそ４：１～５：１に収まる傾向にある。ただし、八幡堂遺跡ではすべて倒立状態の土器が検出され、鳴沢遺跡では正立と倒立が１：１の割合で検出されている。土器埋設遺構が集中する陸奥湾沿岸の３遺跡（岩渡小谷（４）・三内丸山・稲山）と岩手県に隣接する畑内遺跡の傾向を比較すると、正立・倒立の比率には大きな違いが見られないが、入れ子や合口など複数個体を組み合わせて埋葬するものは少なく、前述のようにｄ１式期に増加することを併せると、陸奥湾沿岸の三遺跡周辺でとくに集中して行われた埋設形態とも考えられる。

６　土器埋設遺構の集中する遺跡（図６～９）

前期における土器埋設遺構の属性については前述のとおりであるが、次に、土器埋設遺構が集落内でどのような場所にあるのかを検討したい。検討資料として、集落との関係が明らかで、土



型式別分布

図6　岩渡小谷(4)遺跡遺構配置図（文献2から転載）

器埋設遺構も多い岩渡小谷（４）・三内丸山・稲山・畑内の諸遺跡を取り上げる。

岩渡小谷（４）遺跡（青森市）（図６）

調査区は丘陵を開析する小谷とこれに面した斜面に立地する。前期の集落跡が主体で、前期の竪穴住居跡31軒（帰属時期の分かるもの－下層ｂ式相当５軒・ｃ式相当５軒・ｄ式相当11軒）、土坑10基、土器埋設遺構75基、焼土遺構、小谷を利用した木組遺構などが検出されている。このうち竪穴住居跡は、「下層ｂ・ｃ式期には小谷を挟んだ南北斜面の下側に立地しているが、下層ｄ式相当期になると、北側斜面のみに立地する。土器埋設遺構は南側斜面の頂部から傾斜地にかけて集中し、北側斜面の住居跡周辺にもその分布が認められる。前期中葉～後葉の下層ｂ式相当期には竪穴住居跡の周辺に位置しており、住居跡と土器埋設遺構は近接した関係を持っている。（中略）前期後葉の下層ｃ式相当には土坑墓と考えられる土坑の分布と重複する可能性がある。（中略）前期後～末葉の下層ｄ式相当期には、土器埋設遺構の範囲は土器捨て場と一部範囲が重なる」(註４)と記載されている。

土器埋設遺構は埋設形態による相違はあまり見られなかった。非常に密集しているが、下層ｄ1式期には竪穴住居跡の凹地に埋設されている。

三内丸山遺跡（青森市）（図７）

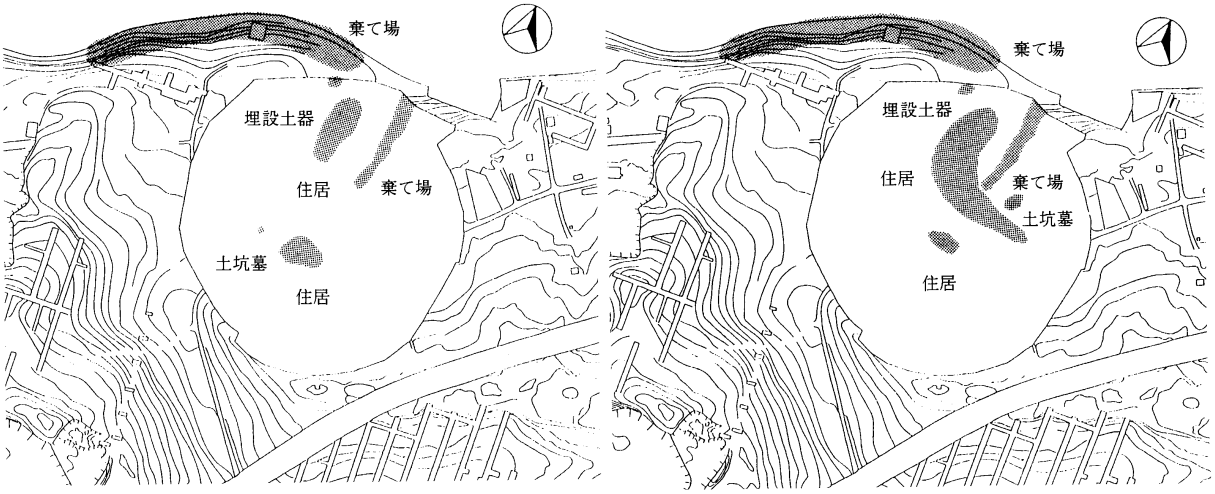
前期は２期に区分され、第Ⅰ期　前期中頃、第Ⅱ期　前期末頃としている(註５)。報告書作成中であるため、竪穴住居跡・土器埋設遺構以外の遺構数は不明である。前期の竪穴住居跡は約71軒（第Ⅰ期約20軒、第Ⅱ期約38軒(註６)）である。土器埋設遺構は67基（帰属時期の分かるもの－下層ｂ式２基・ｃ式２基・ｄ１式16基・ｄ２式６基）で、遺構配置は不明であるが、調査区内の遺構集中範囲やグリッド配置から、集落内におけるおおよその関係がつかめそうである。第Ⅰ期は「子どもの墓は住居の北側から台地の縁にかけて分布する。この段階で住居跡と墓域が区別されているようである」。第Ⅱ期は「子どもの墓は住居跡の北側から台地の縁にかけて分布する」(註５)としている。

土器埋設遺構の配置図は、報告書に基づいて作成した。単独で離れた場所から検出される土器埋設遺構もあるが、多くがⅥＡ～ⅥＰ－80～90の範囲に集中していることが分かる。下層ｂ・ｃ式期には、検出された数量が少ないものの同じ範囲に埋設される。下層ｂ式段階の合口の埋設形態が確認された。下層ｄ１式期には、数量が増加するため、密集の度合いも大きくなる。図から、当遺跡の下層ｄ１式期の土器埋設遺構は、同じ埋設形態や複数の土器を使用する埋設方法、副葬品の類似など、共通するものが密集して構築されるのが特徴であると思われる。ⅥＪ～ⅥＮ－85～87グリッドでは倒立土器が９基集中して埋設されていた。また、図示していないが、表41・42の「合口」や表10・11の「合口」・「入れ子」など隣接して検出されたものやＲフレイクを副葬品に持つもの（表14・16）などが挙げられる。

下層ｄ２式期には同じ土器埋設遺構の範囲に２～数基単位で１ヶ所に密集している。ⅥＨ～ⅥＪ－81・82グリッド、ⅥＣ～ⅥＥ－90グリッドなどがこれに当たる。

稲山遺跡（青森市）（図８）

調査区は丘陵斜面が南東側に緩やかに突き出した台地状地形で、丘陵頂部及び斜面に立地する。前期の遺構は竪穴住居跡27軒（帰属時期のわかるもの－下層ｂ式３軒・ｄ式23軒）、土坑209基、



第Ⅰ期　縄文時代前期中頃

第Ⅱ期　縄文時代前期末頃

（文献４P105図を縮小して転載）

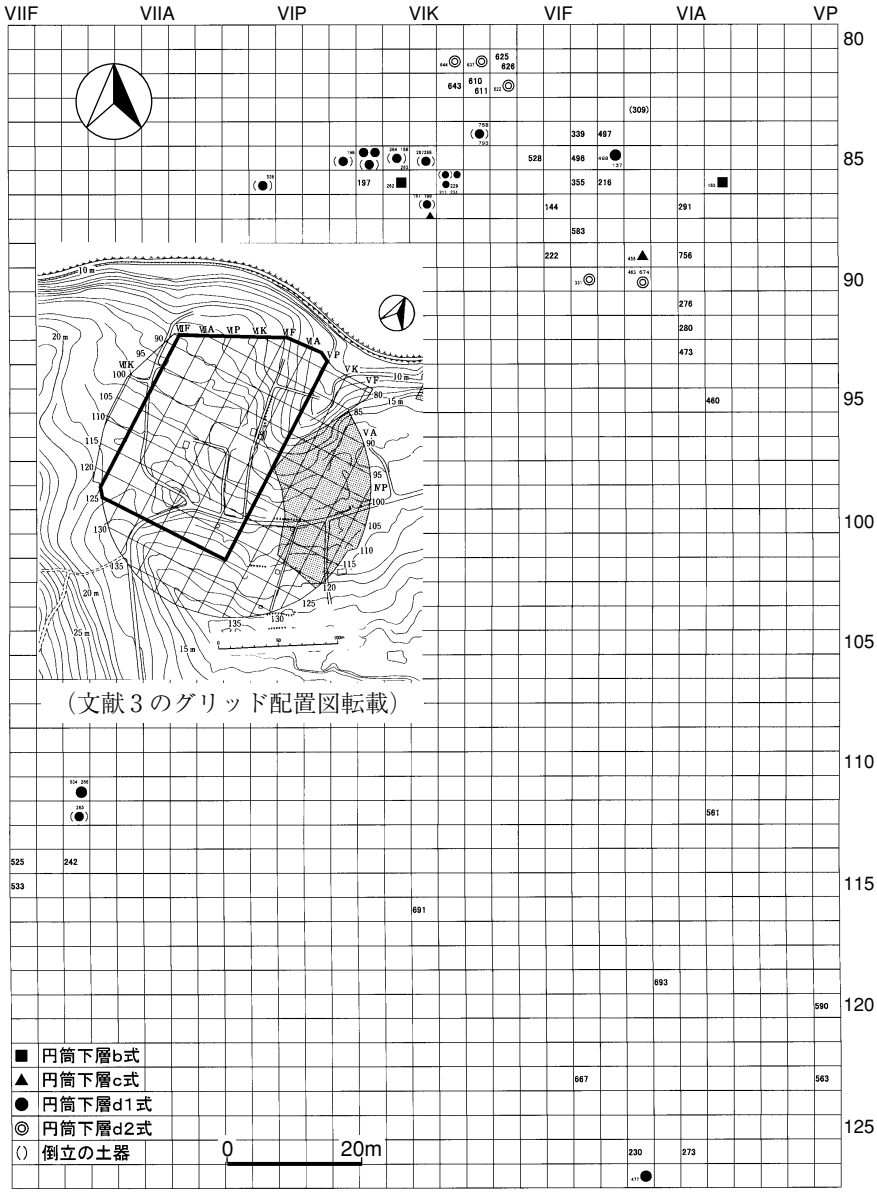


図７　三内丸山遺跡の前期土器埋設遺構配置図（文献５を基に作成）

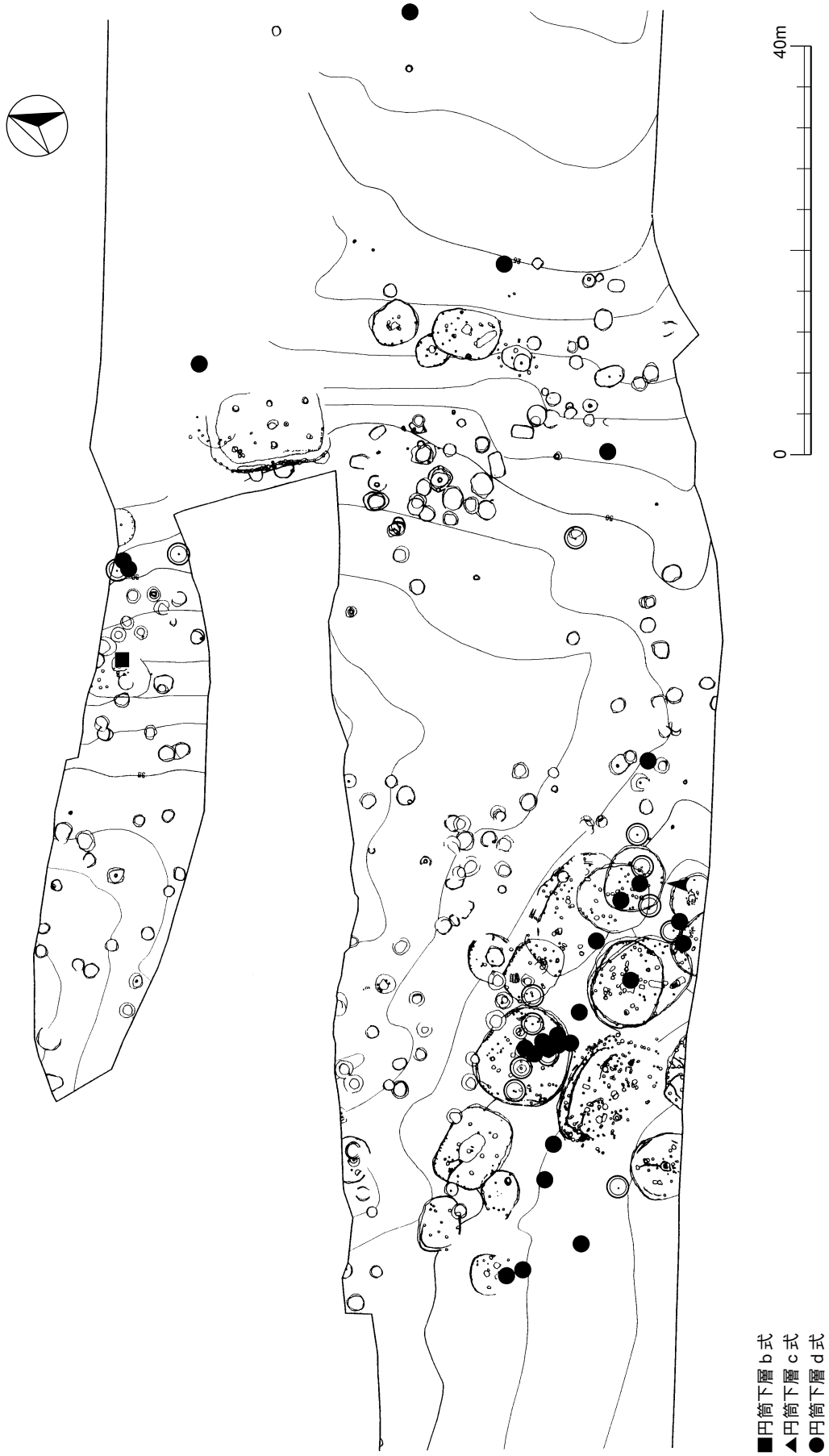


図８　稲山遺跡遺構配置図（文献７を基に作成）

土器埋設遺構43基（帰属時期の分かるもの－下層ｂ式１基・前期末葉（下層ｄ式主体）31基）などが検出されている。斜面の高位に土坑、中位に竪穴住居跡、下位に土器埋設遺構が設けられている。遺物包含層も形成され、下層ｂ式・ｄ１式期には北東側と南西側斜面に捨てられている。下層ｂ式期の遺物包含層が「特定の凹地を意識しているような印象を受ける」のに対して、下層ｄ式期には「おおむね自然地形を利用した廃棄の場と考えられる。（中略）３類土器（以下、下層ｂ式土器とする）で考えられるような特定の凹地への意識というものではなく、むしろ自然地形に対するものと同様な意識があったのではないかと思われる。」(註7)としている。

以上のように、下層ｄ１式の土器埋設遺構は、重複する竪穴住居跡の堆積土中に埋設されていることから、遺物包含層形成時に構築されたと考えられる。当遺跡では、竪穴住居跡の凹地に埋設される土器が14基と全体の１／３を占め、積極的に凹地に埋設した傾向が見られる。またこれに加えて、三内丸山遺跡同様、共通する要素を持つ土器埋設遺構が近接しており、複数の土器を使用するもの（表69・84）、蓋石のあるもの（表68・70）、土器内部から礫が出土したもの（表69・73・84）などの例がある。

また、下層ｂ式の土器埋設遺構は１基で、遺物包含層に隣接した場所に立地している。

畑内遺跡（南郷村）（図９）

新井田川の低位段丘に立地し、竪穴住居跡は前期の下層ａ～ｂ式期46軒、下層ｃ式期13軒、前～中期の下層ｄ～上層ａ式期29軒の帰属が想定されている。土坑573基（うちフラスコ状土坑384基で、帰属時期の不明なものが多い）、土器埋設遺構66基（帰属時期の分かるもの－下層ａ式３基・ｂ式６基・ｃ式４基・ｄ１式35基・ｄ２式３基）が検出されている。各時期の遺構配置は図示したとおりである。土器埋設遺構については、「土器埋設遺構の立地は遺跡東側の台地上と、西側の下層ａ～ｂ式の竪穴住居跡が構築される近辺に大きく分けられる。（中略）遺跡東側の平坦面は、下層ｃ～ｄ式期に埋葬と遺物を捨てる場であったことが窺える。（中略）西側に形成された下層ａ～ｂ式の集落に伴う遺構であると考えられる」(註8)とされている。畑内遺跡では、大面遺跡と並んで下層ａ式の土器埋設遺構が検出されている。下層ｂ式期の土器埋設遺構は住居跡周辺（ＡＵ～ＡＺ－40～45グリッド）、Ａ捨て場範囲内などで検出されている。下層ｃ式期の土器埋設遺構もＡ捨て場内で検出されている。下層ｄ１・ｄ２式期はＡ捨て場内に密集し、周辺にも埋設されるようになる。畑内遺跡では、土器のみを正立させる単純な埋設方法が多いが、いくつかの共通する要素が見られ、近接して立地している。礫の入った土器（表254・255）、正立斜位の土器（表234・235）、倒立の土器（表232・233、263・273）などがある。

7　まとめ

土器埋設遺構の分類から土器埋設遺構の特徴をまとめ、次のような点が明らかになった。

・縄文時代前期の円筒土器文化圏においては、畑内・大面遺跡など岩手・秋田両県に近い地域に初現が見られる。

・埋設される土器は完形もしくは完形に近い土器が多く、完形でない場合は、胴～底部の部位など、底部のある土器を使用する傾向がある。胴部や底部には、穿孔された痕跡が見られない(註9)。少なくとも縄文時代中期以降に穿孔されたものと思われる。

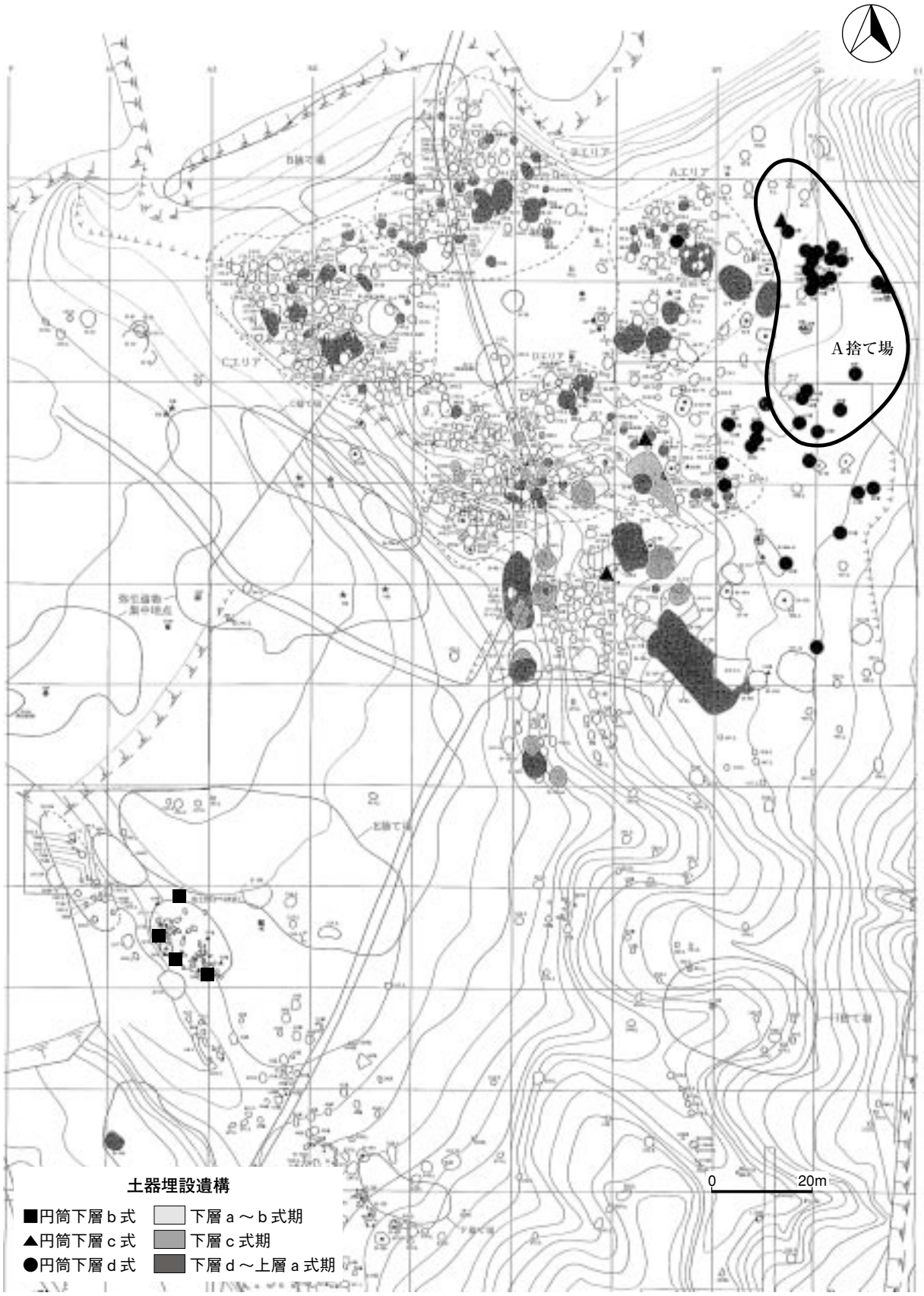


図９　畑内遺跡遺構配置図

・埋設形態は正立土器が約70％、倒立土器が約20％で、遺跡・土器型式・地域別で大きな差はない。複数の土器を使用する「入れ子」・「合口」の初現はそれぞれ下層ｃ式・ｂ式で、下層ｄ式期には検出数も増加する。
・埋設する土器以外に使用するものとして、土器の下に置く石・蓋石、土器内に埋納するものとして礫・フレイク・礫石器・剥片石器などの石器がある。
・検討した遺跡と集落跡内における土器埋設遺構の立地を分類し、
　Ⅰ　住居跡近辺に埋設されるもの。下層ａ～ｂ式期（岩渡小谷（４）・畑内）(註10)
　Ⅱ　遺物捨て場など、住居跡と離れて埋設されるもの。下層ａ～ｂ式期（三内丸山・稲山・畑内）、下層ｃ～ｄ式期（岩渡小谷（４）・三内丸山・畑内・稲山）
　Ⅲ　点在するもの　各時期にある。
・下層ａ～ｂ式期については、各遺跡で検出数も限られており確証はないが、ⅠとⅡが併存する可能性も考えられる。下層ｃ～ｄ式期になると、大部分がⅡへと移行し、遺物捨て場などが墓域として居住エリアと分離された空間を形成していたものと思われる。
・下層ｄ式期には、竪穴住居跡の堆積土中に埋設される土器が、この時期の２遺跡17例あり、凹地などが埋設する場所として選択される可能性が高い。この時期には「倒立・合口・入れ子」などの埋設形態、蓋石の有無、土器内出土遺物の類似など、共通の特徴を持った土器埋設遺構が二～数基近接して検出される例も見られる。遺跡の検討時にはふれなかったが、板留（２）遺跡でも同様の傾向がみられる。このことから、墓域エリアという大きな区域内にも幾つかの小グループに分かれて埋葬された可能性が指摘できる。
・縄文時代前期の北海道コタン温泉遺跡では、幼児骨を土器埋設遺構内及び土坑に埋葬する同時期の２例が検出され、幼児骨の埋葬例に少なくとも２つの例があったことを示している。これらの例は下層ｄ式期と考えられ、土坑を含めた土器埋設遺構の検討も必要であると思われる。

8　おわりに

今回は検討できなかったが、一つの課題として、土器埋設遺構の土器容量の違いの問題がある。検出状況の違いはあっても、明らかに容量に大きな違いのある例が見られた。この違いは、山田康弘氏の「胎児・新生児・幼児」の区分にあたるのかもしれない(註２)。岩渡小谷（４）遺跡での調査を契機に土器埋設遺構について検討したが、筆者自身も含めて、報告書内に土器埋設遺構の情報をきちんと呈示することが必要であると痛感した(註11)。今回のこのような機会を得たことに深く感謝するとともに、末筆ながら、次の方々にお世話になった。記して感謝申し上げる次第である。鈴木康二・田中珠美・永嶋　豊・茅野嘉雄（敬称略）。

（註１）文献19．22・23ｐ
（註２）文献29．10ｐ・２～３ｐ、ただし、前期に住居内の土壙墓から幼児期の単独埋葬例がみられる。
（註３）型式は下層ａ・ｂ・ｃ・ｄ１・ｄ２式を用いた。ｂ１・ｂ２式は個体数が少ないため、ｂ式に統一して使用している。ｄ２式または上層ａ式の範疇に入る土器はｄ２～上ａとした。時期のみ記載されたものは、それぞれの型式に当てはめてカッコ書きで記載した。同じ型式でも報告書によって、時期の異なるものもあるが、そのまま掲載してある。
（註４）文献２　343・345ｐ
（註５）文献６　第Ⅲ章第２節　ムラのうつりかわり

（註６）報告書記載の時期を当てはめた。第Ⅰ期・第Ⅱ期に帰属しない住居跡が約13軒である。
（註７）文献７　116ｐ
（註８）文献34　205p
（註９）集成時に報告書で確認できたものはなかった。岩渡小谷（４）・三内丸山遺跡の土器埋設遺構は実見したが痕跡はみられなかった。また、茅野嘉雄氏によると、畑内遺跡も同様であるらしい。
（註10）稲山遺跡の下層ｄ式期の住居跡は遺物包含層の下部に形成されているが、各住居跡の使用時期と遺物包含層形成期が異なるのか時期が重複するのか、詳細な検討も必要かと思われる。
（註11）文献28参照。このほか、遺物の取上げ・接合時から、他の遺物よりも慎重に取り扱い、口縁・底部・内容物の詳細な事実記載をお願いしたい。

（引用・参考文献）

1　畠山　昇・坂本真弓　2003　『岩渡小谷（３）・（４）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第352集
2　坂本真弓・工藤　司・畠山　昇　2004　『岩渡小谷（４）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第371集
3　青森県埋蔵文化財調査センター　1994　『三内丸山（２）遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第157集
4　青森県教育庁文化課　1996　『三内丸山遺跡Ⅵ』青森県埋蔵文化財調査報告書第205集
5　青森県教育庁文化財保護課　2004　『三内丸山遺跡25―旧野球場建設予定地発掘調査報告書５　埋設土器編―』青森県埋蔵文化財調査報告書第383集
6　青森県史編纂考古部会　2002　『青森県史別編三内丸山遺跡』青森県
7　小野貴之・児玉大成　2004　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ（分析・総括編）』青森市埋蔵文化財調査報告書第72集
8　青森市教育委員会　2004　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森市埋蔵文化財調査報告書第71集
9　青森市教育委員会　2003　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』青森市埋蔵文化財調査報告書第66集
10　青森市教育委員会　2002　『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』青森市埋蔵文化財調査報告書第62集
11　青森県埋蔵文化財調査センター　1997　『畑内遺跡Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第211集
12　青森県埋蔵文化財調査センター　1999　『畑内遺跡Ⅴ』青森県埋蔵文化財調査報告書第262集
13　青森県埋蔵文化財調査センター　2001　『畑内遺跡Ⅶ』青森県埋蔵文化財調査報告書第308集
14　青森県埋蔵文化財調査センター　2002　『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
15　青森県教育委員会　1980　『板留（２）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第59集
16　青森県教育委員会　1992　『鳴沢遺跡・鶴喰（９）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第142集
17　青森県教育委員会　1980　『大平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第52集
18　青森県教育委員会　1980　『大面遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第55集
19　江坂輝彌　1958　「青森県三戸郡大館村蟹沢遺跡調査報告」『石器時代』第５号
20　西野　元　1998　『瀬野遺跡』脇野沢村
21　橘　善光　1997　『八幡堂遺跡発掘調査報告書（２）』佐井村教育委員会
22　西野　元　1998　『青森県脇野沢村稲平遺跡』脇野沢村
23　石川長者森遺跡発掘調査委員会・発掘調査団　1987　『石川長者森遺跡発掘調査報告書』（学校法人）東奥義塾
24　十和田市教育委員会　1992　『中崎沢遺跡発掘調査報告書』十和田市教育委員会
25　東通村教育委員会　1985　『石持納屋遺跡発掘調査報告書』東通村教育委員会
26　青森県教育委員会　2003　「特別史跡　三内丸山遺跡　縄文シンポジウム2003　三内丸山遺跡と円筒土器文化」青森県教育委員会
27　南北海道考古学情報交換会　1996　『第17回　南北海道考古学情報交換会　円筒土器下層式図録集Ⅱ　遺構編』南北海道考古学情報交換会
28　川添和暁　2002　「三本松遺跡出土の土器埋設遺構について」『研究紀要』第３号　（財）愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
29　山田康弘　1997　「縄文時代の子供の埋葬」『日本考古学』第４号　日本考古学協会
30　山田康弘　2004　「三内丸山遺跡における墓域の基礎的検討」『特別史跡三内丸山遺跡年報－７－』青森県教育委員会
31　宮尾　亨・中村　大　2000　「埋葬方法の類型とその配置からみた縄文社会」『史跡三内丸山遺跡年報－３－』青森県教育委員会
32　長沢宏昌　1994　「甲府盆地周辺にみられる縄文時代中期の土壙墓と土器棺再葬墓―井戸尻Ⅲ式～曽利Ⅰ式期の場合―」『研究紀要10』山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
33　茅野嘉雄　2002　「畑内遺跡のフラスコ状土坑について」『海と考古学とロマン』市川金丸先生の古稀を祝う会
34　小山浩平・佐藤智生・伊藤陽肇・福井流星　2003　『畑内遺跡Ⅸ』青森県埋蔵文化財調査報告書第345集
35　八雲町教育委員会　1992　『コタン温泉遺跡』八雲町教育委員会

縄文時代前期の土器埋設遺構

番号	遺跡名	埋設No.	形態	斜位	土器内・外	部位	時期	文献
1	三内丸山	137	正立	—	—	—	前～中期	5
2	三内丸山	144	正立	—	—	1	前～中期	5
3	三内丸山	165	合口２	—	—	5･2	前期中葉～後葉(円筒下層b)	5
4	三内丸山	167	正立	—	—	4	前期後葉(円筒下層c)	5
5	三内丸山	188	倒立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
6	三内丸山	191	倒立	—	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
7	三内丸山	194	倒立	—	—	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
8	三内丸山	197	正立	—	—	1	前～中期	5
9	三内丸山	198	倒立	—	軽石1点	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
10	三内丸山	199	合口１	—	—	2･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
11	三内丸山	211	正正入れ子	—	—	6･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
12	三内丸山	216	正立	—	—	—	前期	5
13	三内丸山	222	正立	—	—	—	前期	5
14	三内丸山	229	倒立	—	Ｒフレイク1点	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
15	三内丸山	230	正立	—	礫1点	2	前～中期	5
16	三内丸山	231	正立	—	Ｒフレイク1点	1	円筒下層	5
17	三内丸山	235	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
18	三内丸山	242	正立	—	剥片1点	—	前～中期	5
19	三内丸山	262	正立	—	—	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	5
20	三内丸山	263	正立	—	—	2	円筒下層	5
21	三内丸山	264	正立	—	—	3	円筒下層	5
22	三内丸山	265	倒立	—	—	—	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
23	三内丸山	266	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
24	三内丸山	267	倒立	—	—	1	円筒下層	5
25	三内丸山	268	倒立	—	—	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
26	三内丸山	269	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
27	三内丸山	273	正立	—	—	—	前～中期	5
28	三内丸山	276	正立	—	—	—	前期	5
29	三内丸山	280	正立	—	—	2	円筒下層	5
30	三内丸山	291	正立	—	—	—	前～中期	5
31	三内丸山	309	倒立	斜位	—	—	前～中期	5
32	三内丸山	331	正立	—	礫2点	6	下層d2～上a	5
33	三内丸山	339	正立	—	—	1	前～中期	5
34	三内丸山	355	正立	—	—	1	前～中期	5
35	三内丸山	455	正立	斜位	—	6	前期後葉～末葉(c～d1)	5
36	三内丸山	460	正立	—	—	1	前～中期	5
37	三内丸山	463	正立	—	—	1	前～中期	5
38	三内丸山	473	正立	—	—	1	前～中期	5
39	三内丸山	477	正立	—	礫2点	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
40	三内丸山	496	正立	—	—	1	円筒下層	5
41	三内丸山	497	合口２	—	—	?･2	円筒下層	5
42	三内丸山	498	合口１	—	—	6･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
43	三内丸山	525	正立	—	—	—	前～中期	5
44	三内丸山	528	正立	—	—	—	前～中期	5
45	三内丸山	533	正立	—	—	1	前～中期	5
46	三内丸山	534	正立	—	—	1	前～中期	5
47	三内丸山	536	倒立	—	—	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
48	三内丸山	555	正立	—	—	1	円筒下層	5
49	三内丸山	561	正立	—	—	1	円筒下層	5
50	三内丸山	567	正立	—	—	—	前～中期	5
51	三内丸山	583	正立	—	—	1	前～中期	5
52	三内丸山	590	正立	—	—	1	前～中期	5
53	三内丸山	610	正立	—	—	2	円筒下層	5
54	三内丸山	611	正立	—	—	2	円筒下層	5
55	三内丸山	622	正立	—	石皿(蓋石)･敲磨器1点	6	下層d2～上a	5
56	三内丸山	625	正立	—	—	1	円筒下層	5
57	三内丸山	626	正立	—	礫1点	4	円筒下層d2	5
58	三内丸山	637	正立	—	—	1	下層d2～上a	5
59	三内丸山	643	正立	—	—	1	前～中期	5
60	三内丸山	644	正立	—	—	1	下層d2～上a	5
61	三内丸山	667	正立	—	—	1	前～中期	5
62	三内丸山	674	正立	斜位	—	2	下層d2～上a	5
63	三内丸山	691	正立	—	—	6	下層d2～上a	5
64	三内丸山	693	正立	—	—	1	前～中期	5
65	三内丸山	756	正立	—	—	1	円筒下層	5
66	三内丸山	758	倒立	—	—	—	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	5
67	三内丸山	793	正立	—	—	2	円筒下層	5
68	稲山	1	正立	—	礫(蓋石)	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
69	稲山	2	合口１	—	礫	6･6	前期末葉(円筒下層d1)	10
70	稲山	3	倒立	斜位	礫(蓋石)	5	前期末葉(円筒下層d1)	10
71	稲山	4	正立	—	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
72	稲山	5	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
73	稲山	6	正立	斜位	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
74	稲山	8	正立	—	—	2	前期後半	10
75	稲山	10	正立	—	—	2	前期後半	10
76	稲山	11	正立	—	—	6	前期末葉	10
77	稲山	12	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
78	稲山	15	正立	—	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
79	稲山	16	正立	斜位	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
80	稲山	18	正正入れ子	—	礫	4･6	前期末葉(円筒下層d1)	10
81	稲山	19	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
82	稲山	20	正立	—	—	2	前期後半	10
83	稲山	21	正立	—	—	2	前期後半	10
84	稲山	22	合口１	—	敲磨器1点	4･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	10
85	稲山	26	正立	—	—	6	前期末葉	9
86	稲山	27	正立	—	別個体土器	6	前期末葉(円筒下層d1)	9
87	稲山	28	倒立	—	礫(蓋石)	6	前期末葉(円筒下層d1)	9
88	稲山	30	倒立	—	敲磨器1点	6	前期末葉(円筒下層d1)	9
89	稲山	32	倒立	—	石匙・敲磨器類各1点	1	前期後半	9
90	稲山	35	正立	—	—	2	前期後半	10
91	稲山	36	正立	—	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	9
92	稲山	38	正立	—	角礫多量	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
93	稲山	39	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
94	稲山	40	正立	—	—	2	前期後半	10
95	稲山	41	正立	—	礫	6	前期末葉(円筒下層d1)	10
96	稲山	42	正正入れ子	—	—	6･6	前期末葉(円筒下層d1)	10
97	稲山	43	正立	—	—	4	前期末葉(円筒下層d1)	10
98	稲山	44	正立	斜位	—	2	前期後半	9
99	稲山	45	倒立	—	—	4	前期末葉(円筒下層d1)	9
100	稲山	47	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	9
101	稲山	50	倒立	—	礫	4	前期末葉(円筒下層d1)	9
102	稲山	57	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	8
103	稲山	58	倒立	—	—	4	前期後半	9
104	稲山	70	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	8
105	稲山	71	合口１	—	—	6･6	前期末葉(円筒下層d1)	8
106	稲山	72	合口１	—	礫	2･3	前期後半	8
107	稲山	75	倒立	—	—	4	前期末葉(円筒下層d1)	8
108	稲山	76	倒立	斜位	礫(土器下)	6	前期末葉	8
109	稲山	77	倒立	—	—	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	8
110	稲山	78	正立	—	敲磨器1点	2	前期後半	8
111	鳴沢	1	正立	—	礫(蓋石)	6	前期末葉(円筒下層d2)	16
112	鳴沢	2	倒立	—	石皿(土器下)	6	前期末葉(円筒下層d2)	16
113	鳴沢	3	倒立	—	敲磨器２点	5	前期末葉(円筒下層d2)	16
114	鳴沢	4	正立	—	—	6	前期末葉(円筒下層d2)	16
115	鳴沢	5	倒立	斜位	—	1	前期	16
116	鳴沢	6	正立	—	—	1	前期	16
117	鳴沢	7	倒立	—	礫(土器下)、礫	4	前期末葉(円筒下層d2)	16
118	鳴沢	8	倒立	—	礫(土器下)、石鏃1	5	前期末葉(円筒下層d2)	16
119	鳴沢	9	倒立	—	礫(蓋石・下部)	2	前期	16
120	鳴沢	10	正立	—	—	1	前期	16
121	鳴沢	11	正立	—	礫(蓋石)、礫２点	5	前期末葉(円筒下層d2)	16
122	鳴沢	12	正立	—	—	1	前期末葉	16
123	鳴沢	13	倒立	—	—	4	前期末葉(円筒下層d2)	16
124	板留（２）	1	正立	—	—	6	円筒下層d1	15
125	板留（２）	2	正立	—	—	1	円筒下層d1	15
126	板留（２）	3	正立	—	礫3点	6	円筒下層d1	15
127	板留（２）	4	正立	—	礫(蓋石)	6	円筒下層d1	15
128	板留（２）	5	正立	—	—	1	円筒下層d1	15
129	板留（２）	6	正立	—	—	1	円筒下層d1	15
130	板留（２）	7	正立	—	礫1点	6	円筒下層d1	15
131	板留（２）	10	正立	—	浮石2点	6	円筒下層d1	15
132	板留（２）	12	倒立	—	—	6	円筒下層d1	15
133	板留（２）	13	正立	—	浮石	6	円筒下層d1	15
134	板留（２）	14	正立	—	—	6	円筒下層d1	15
135	板留（２）	15	倒立	—	—	4	円筒下層d1	15
136	板留（２）	16	正立	—	小石	6	円筒下層d1	15
137	板留（２）	17	倒立	—	—	6	円筒下層d1	15
138	板留（２）	18	正立	—	—	2	円筒下層d1	15
139	岩渡小谷(4)	1	正立	—	—	3	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
140	岩渡小谷(4)	2	正立	—	—	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
141	岩渡小谷(4)	3	正立	—	—	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
142	岩渡小谷(4)	4	正立	—	—	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
143	岩渡小谷(4)	5	正立	—	—	1	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
144	岩渡小谷(4)	6	正立	—	礫2点	1	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
145	岩渡小谷(4)	7	正立	—	—	5	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
146	岩渡小谷(4)	8	正立	斜位	—	5	前期中葉～後葉(円筒下層b)	1
147	岩渡小谷(4)	9	倒立	—	—	3	前期後半	1
148	岩渡小谷(4)	10	倒立	斜位	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
149	岩渡小谷(4)	11	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
150	岩渡小谷(4)	12	正立	—	—	1	前期後半	1
151	岩渡小谷(4)	13	倒立	—	—	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
152	岩渡小谷(4)	14	正立	斜位	—	2	前期後半	1
153	岩渡小谷(4)	15	正立	—	—	2	前期後半	1
154	岩渡小谷(4)	16	正立	—	—	2	前期後半	1

番号	遺跡名	埋設No.	形態	斜位	土器内・外	部位	時期	文献
155	岩渡小谷(4)	17	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
156	岩渡小谷(4)	18	合口１	斜位	—	6･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
157	岩渡小谷(4)	19	正立	—	磨石1点・礫(土器下)	1	前期後半	1
158	岩渡小谷(4)	21	正立	斜位	鉢底部・敲製石匙・スクレーパー1点	2	前期後半	1
159	岩渡小谷(4)	22	倒倒入れ子	—	—	4･5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
160	岩渡小谷(4)	23	正立	—	—	2	前期後半	1
161	岩渡小谷(4)	24	正立	—	—	1	前期後半	1
162	岩渡小谷(4)	25	倒立	—	—	5	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
163	岩渡小谷(4)	26	倒立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
164	岩渡小谷(4)	27	合口１	—	—	1･1	前期後半	1
165	岩渡小谷(4)	29	正立	—	—	1	前期後半	1
166	岩渡小谷(4)	30	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
167	岩渡小谷(4)	31	正立	—	—	2	前期後半	1
168	岩渡小谷(4)	32	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
169	岩渡小谷(4)	35	正立	—	—	2	前期後半	1
170	岩渡小谷(4)	36	正立	—	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
171	岩渡小谷(4)	37	正立	斜位	—	2	前期後半	1
172	岩渡小谷(4)	38	倒立	斜位	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
173	岩渡小谷(4)	39	倒立	—	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
174	岩渡小谷(4)	41	合口１	—	—	6･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
175	岩渡小谷(4)	43	倒立	斜位	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
176	岩渡小谷(4)	44	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
177	岩渡小谷(4)	45	倒立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
178	岩渡小谷(4)	46	正立	斜位	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
179	岩渡小谷(4)	48	正立	—	—	1	前期後半	1
180	岩渡小谷(4)	51	正立	—	—	6	前期後葉(円筒下層c)	1
181	岩渡小谷(4)	52	正立	—	—	1	前期後半	1
182	岩渡小谷(4)	53	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
183	岩渡小谷(4)	54	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
184	岩渡小谷(4)	55	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
185	岩渡小谷(4)	56	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
186	岩渡小谷(4)	57	倒立	斜位	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
187	岩渡小谷(4)	58	合口１	—	—	1･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
188	岩渡小谷(4)	59	倒立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
189	岩渡小谷(4)	60	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
190	岩渡小谷(4)	61	正立	—	—	2	前期後半	1
191	岩渡小谷(4)	62	合口１	—	石匙1点・礫(蓋石)	6･6	前期後葉	1
192	岩渡小谷(4)	63	倒立	—	—	4	前期後葉	1
193	岩渡小谷(4)	64	合口１	—	礫(蓋石)	1･2	前期後半	1
194	岩渡小谷(4)	65	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
195	岩渡小谷(4)	66	正立	—	—	2	前期後半	1
196	岩渡小谷(4)	67	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
197	岩渡小谷(4)	68	正立	斜位	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
198	岩渡小谷(4)	69	合口１	—	—	1･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
199	岩渡小谷(4)	70	正立	—	—	2	前期後半	1
200	岩渡小谷(4)	71	倒立	—	—	4	前期後葉～末葉(c～d1)	1
201	岩渡小谷(4)	72	正立	斜位	—	2	前期後葉～末葉(c～d1)	1
202	岩渡小谷(4)	73	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(c～d1)	1
203	岩渡小谷(4)	74	正立	—	—	2	前期後半	1
204	岩渡小谷(4)	77	正立	—	—	5	前期後半	1
205	岩渡小谷(4)	78	正立	—	礫1点	1	前期後半	1
206	岩渡小谷(4)	79	倒立	—	—	4	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
207	岩渡小谷(4)	80	合口１	斜位	礫1点	1･2	前期後半	1
208	岩渡小谷(4)	81	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
209	岩渡小谷(4)	82	正立	—	—	6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
210	岩渡小谷(4)	84	合口１	—	小礫1点・礫(蓋石)	2･6	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	1
211	岩渡小谷(4)	85	正立	斜位	石皿片	2	前期後半	1
212	岩渡小谷(4)	86	正立	—	—	1	前期後半	1
213	岩渡小谷(4)	87	正立	—	—	6	前期後葉(円筒下層c)	1
214	大平	1	正立	—	—	6	円筒下層b	17
215	大平	2	正立	—	—	6	円筒下層b	17
216	大平	3	正立	—	—	2	前期	17
217	大面	1	正立	—	—	1	前期中葉	18
218	大面	2	正立	—	礫(蓋石)	6	前期中葉	18
219	大面	4	正立	—	—	1	前期中葉	18
220	大面	6	正立	斜位	—	2	前期中葉	18
221	大面	7	横位	—	—	4	前期中葉	18
222	石川長者森	1	正立	—	—	2	円筒下層	23
223	畑内	1	正立	—	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
224	畑内	2	正立	—	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
225	畑内	3	正立	—	—	2	円筒下層	11
226	畑内	4	倒立	—	—	2	円筒下層	11
227	畑内	5	倒立	—	—	6	前期後半(円筒下層b)	11
228	畑内	6	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
229	畑内	7	不明	不明	—	2	円筒下層	11
230	畑内	8	正立	不明	—	4	前期後半(円筒下層c)	11
231	畑内	9	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
232	畑内	10	倒立	斜位	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
233	畑内	11	倒立	不明	—	4	前期終末(円筒下層d1)	11
234	畑内	12	正立	斜位	—	5	前期終末(円筒下層d1)	11
235	畑内	13	正立	斜位	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
236	畑内	14	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
237	畑内	15	正立	不明	—	—	行方不明	11
238	畑内	16	正立	不明	—	—	行方不明	11
239	畑内	17	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
240	畑内	18	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
241	畑内	19	正立	斜位	—	5	前期後半(円筒下層c)	11
242	畑内	20	正立	不明	—	6	円筒下層	11
243	畑内	21	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
244	畑内	22	正立	不明	—	—	行方不明	11
245	畑内	23	正立	不明	—	6	前期終末(円筒下層d1)	11
246	畑内	24	正立	不明	—	3	前期終末(円筒下層d1)	11
247	畑内	25	倒立	不明	—	6	前期後半(円筒下層c)	11
248	畑内	26	倒立	不明	—	6	前期後半(円筒下層b)	11
249	畑内	27	正立	—	—	6	円筒下層b	11
250	畑内	28	正立	—	—	6	円筒下層b	11
251	畑内	29	正立	—	—	6	円筒下層b	11
252	畑内	30	正立	—	—	2	円筒下層	12
253	畑内	31	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
254	畑内	32	正立	—	礫1点	6	円筒下層d1	12
255	畑内	33	正立	—	礫1点	6	円筒下層d1	12
256	畑内	34	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
257	畑内	35	倒立	—	—	6	円筒下層d1	12
258	畑内	36	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
259	畑内	37	正立	斜位	—	6	円筒下層d2	12
260	畑内	39	正立	—	—	6	円筒下層a	12
261	畑内	41	正立	—	—	1	円筒下層	12
262	畑内	43	正立	—	—	1	円筒下層	12
263	畑内	44	倒立	—	—	4	円筒下層d1	12
264	畑内	45	正立	—	—	6	円筒下層d2	12
265	畑内	46	正立	—	礫2点・礫(蓋石)	6	前期末葉(円筒下層d1)	13
266	畑内	47	正立	—	—	2	円筒下層d1	13
267	畑内	48	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
268	畑内	49	正立	—	礫２(蓋石)	6	円筒下層d1	13
269	畑内	50	正立	—	—	1	円筒下層	12
270	畑内	51	正立	—	—	6	円筒下層d2	12
271	畑内	52	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
272	畑内	53	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
273	畑内	54	倒立	—	—	4	円筒下層d1	12
274	畑内	55	倒立	—	—	3	円筒下層	12
275	畑内	56	正立	—	—	1	円筒下層	12
276	畑内	57	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
277	畑内	59	倒立	—	—	4	円筒下層a	12
278	畑内	61	正立	—	—	6	円筒下層d1	12
279	畑内	62	正立	—	礫1点	6	円筒下層d1	12
280	畑内	70	正立	斜位	—	6	円筒下層d1	13
281	畑内	71	倒立	—	—	6	前期後葉(円筒下層d1)	13
282	畑内	73	正立	—	—	2	円筒下層d2	13
283	畑内	74	正立	—	—	2	円筒下層	13
284	畑内	75	倒立	—	—	4	前期後葉(円筒下層c)	13
285	畑内	76	正立	—	—	5	前期後葉(円筒下層c)	13
286	畑内	77	横位	—	—	6	前期末葉(円筒下層d1)	13
287	畑内	86	正立	—	—	—	円筒下層a	14
288	畑内	90	正立	—	削器	6	前期中葉～後葉(円筒下層b)	14
289	中崎沢	写真No.5	正立	—	—	6	円筒下層d2	24
290	中崎沢	写真No.6	正立	—	—	6	円筒下層d2	24
291	蟹沢		正立	不明	礫(蓋石)	—	前期後葉～末葉(円筒下層d1)	19
292	石持納屋	埋設土器遺構	正立	—	礫	1	円筒下層d1	25
293	瀬野	2	正立	—	—	5	円筒下層d2	20
294	八幡堂	1	倒立	—	礫4点・骨片	2	円筒下層c	21
295	八幡堂	2	倒立	—	骨片	—	円筒下層c	21
296	八幡堂	3	倒立	—	—	5	円筒下層c(d1？)	21
297	八幡堂	4･5	倒倒入れ子	—	骨粉	6･6	円筒下層c(d1？)	21
298	稲平	3	正立	—	—	—	下層d2～上a	22
299	稲平	4	正立	斜位	—	6	円筒下層d2	22
300	稲平	5	正立	—	—	6	円筒下層d2	22
301	稲平	7	正立	—	—	6	円筒下層d2	22
302	稲平	9	正立	—	敲磨器1点	6	円筒下層d2	22
303	稲平	11	正立	—	礫2点	2	円筒下層d1	22
304	稲平	12	正立	—	礫1点	6	円筒下層d2	22
305	稲平	13	正立	—	礫1点	2	円筒下層d2	22
306	稲平	14	倒立	—	礫1点	6	円筒下層d2	22
307	稲平	15	正立	—	礫1点	2	円筒下層d2	22